

北広島市長期総合計画審議会 第3回産業・都市部会 議事録

■日 時 平成21年9月4日(金) 18:00~20:15

■会 場 芸術文化ホール活動室1

■出席委員

伊藤寛部会長、麻生昌裕委員、穴田廣光委員、遠藤智恵子委員、
小池隆史委員、藤野伸之委員、森國聡委員、吉田俊一委員

■欠席委員

大木克夫委員、鈴木康熙委員

■事務局

木下信司総合計画課長

1 開 会

配布資料、出席者が揃っていることを確認し、第3回の北広島市長期総合計画審議会を開始した。

2 部会長あいさつ

【部会長】今回、第3回でお話しいただく内容は、産業部門と都市部門に関する素案部分、将来のビジョンに関するキャッチコピーである。

3 議 事

【部会長】それでは、分野別の政策と施策について、議事に入りたいと思う。

【事務局】資料に関する簡単な説明だが、まず全体のつくりは、最初に「現状と課題」が書かれている。次のページには、今後の「基本的な方向」を4点掲げている。そして、その次に「施策の体系」があり、4つの施策によって、この農業の振興という目標を達成していこうということになっている。4つの施策体系に応じた具体的な「施策」がその後に出てくる。この施策の次に、事務局では「指標」を掲げようと思っている。すべての施策についての指標ということにはならないと思うが、農業の振興に関して、指標をこの後に幾つか掲げる予定である。それで、この1つの節「農業の振興」という節が終わるつくりをしたいと思っている。その指標が入れば、ほぼ総合計画の基本計画のつくりと同じ形になるという想定である。

【部会長】 それでは第4章第1節「農業の振興」を読まれて、意見、補足、削除点、あるいはまったく他の意見でもどうぞ。

(1) 農業について

【委員】 農業高校との連携が書かれてない。たとえば大学や各種学校との連携はないのか。

【部会長】 現状では市と直接の連携はない。

【委員】 農業の持っているもう一つの価値ということで、市民農園、あるいは農業の観光化、あるいは農業を教育の現場ということで絡めていくと農業の価値が活きる。

【委員】 休耕農地がたくさんあるが、そこをもっとたくさんの人が使うことはできるリースのようなシステムは無理か。

【委員】 市民農園は許可が必要。一般的に土地が開いているから農地を個々人に貸すということは違法。農地法の制限があり、企業の農業参入は難しい。企業というのは、不採算になると即撤退する。企業が進出し生産できるものなら、今の一般の農家の人たちも裕福になると思う。しかし、裕福でないので徐々に後継者もいなくなっている。農家で暮らせといわれても、なかなか難しい。

【委員】 テレビでカルビーのことを取り扱っていた。カルビーが、帯広の休耕地にポテトチップの原料であるジャガイモを農家につくらせる。農家の人たちによると、年間2,000万円位の利益がある。大手企業が進出し、農家を完璧に支援する体制でなければ難しい。現状は、大資本の支援なしでは成り立たない時代ではないか。

【委員】 道央農協でも薬品会社と提携している事例はある。そのかわり、連作障害のために、1年つくると、3年か4年はつukれない。ほとんどの作物は連作不可で、大体1回つくると3年ぐらいは別な作物をつくる。

【委員】 カルビーのジャガイモも連作できない。にもかかわらず、年間で平均2,000万円の利益が出るというのはすごいことである。

【委員】 100町、200町の大規模の農家でないと無理。この辺の農家は多いところでも30町ぐらい。それほど所得をあげる農家はこの辺ではない。

【委員】 水稻は1反当たり何俵とれるのか。

【委員】 8 俵程度。金額で10万円前後。

【委員】 今は1 俵でいくらか。

【委員】 生産者の手取りで11,000円から12,000円の間。この地域は都市近郊型。大学や関係者と連携をとり、バイオマス構想などに取り組んではどうか。下水汚泥というのは非常に安定したガスが出るので、貴重な資源だ。ただし、カドミウム等の重金属の処理は必要となる。

【委員】 北広島の農業人口は比較的少ない。全部受け入れられるだろうか。

【委員】 受け入れられない分はガスのほうに入れる。そこを間違っ全部堆肥化してしまうと、農地を傷める。

【委員】 一般の農家が、堆肥場施設をつくるとなれば何千万円もかかる。ほとんどの農家はやらない。

【委員】 農協としては、そういう小さい農地を預かって運用を試みているのか。

【委員】 もう計画は始めている。ただし、農地を貸さない人に強制はできない。

【委員】 利益配分は難しい。

【委員】 農地の利用・保全の施策に「耕作放棄地の解消に向け、関係機関と協議し農地の再生、有効利用を進めます」とあるが、何か具体的なことがあるのか。

【委員】 これは道央農業振興公社で動いているが、なかなか前には進みづらい。

【委員】 北広島にも優秀な農家の方々がおられる。そういう方々の経営が安定できるよう、市、行政としてのバックアップを盛り込んでいくことはどうか。

【部会長】 バックアップの具体的内容は。

【委員】 大きく分けて、技術と資金である。技術面は先進地や専門の先生方を紹介するなどのシステムづくり。資金面は先行きが見えないことに対しては、投資しづらい。

【部会長】 他の行政で、そういったことをやっているところはあるのか。

【委員】 北海道の農業と比較するとき、よく長野県が比較対象になる。長野県は高原野菜を東京の市場に出荷する。北海道も似たようなもので、アスパラとかレタスといった商品は長野県とバッティングする。ただ長野県の場合は、非常に管理が厳しく、市場に対して、指定の期間のレタス出荷量を確約する。20年も前から、そういうシステムというのができていた。ところが、北海道は東京の市場関係者に言わせると、品質には不満はないが、入荷時期、品目、量が分からないために、結局値段がつかない。

北広島でも、レタスの契約栽培や無農薬米を生産する農家もいる。アイガモ農法を行っている農家もいる。広くは作っていないが、その中で効率よく作る技術を持っている。

【委員】 市の予算全体が毎年減っている。農業についても毎年少しずつ減らされているような感じがする。

【委員】 施設園芸の農家は、これだけ原油が高騰すると、とても維持していけないと言う。かなり行政もバックアップしてあげないと、そういうまちづくりはできていかない。この10年の計画の中で完成を目指すのではなく、そういう基盤をつくりたいという意思表示をするべきじゃないかと思う。

【委員】 農産物の流通で言うと、7割程度が道外へ行く。北海道のかなりのものは「ひもつき」で動いていく。一方で地場のもの、技術をもっと生かしていこうという動きもある。グリーンツーリズムを活用して、生産者と消費者が互いに発信し、体感できる体験農園の計画がある。

【委員】 消費者とのカルチャーを作っていくことが大事。北広島には、食や農業の情報を発信できる拠点が必要だろう。

【委員】 馬鈴薯一つとっても、貴重な農林水産省直轄の農場がある。種芋をつくっていれば一番反収がいい。

(2) 工業について

【部会長】 市内の企業同士で製品をつくるような連携があるのか。

【委員】 ゼロとは言わないが、ほとんどないだろう。

【事務局】 企業間で連携を持ち、そこでの情報交換から、つながりのある製品を使うとか、共同で開発することを期待するという意味である。「企業間の交流、連携」というのは、それほど具体的なイメージを持った言葉にはなっていない。

【委員】 資料には当たり前のことが書いているので、何とも言いようがない。何か核が北広島にあって、10年間でここまで行くという、何かこの中の1本でもいいから核があればいいと思う。お題目を広げるだけでは核が見えない。だからそのところを市である程度こういうことをしたいと思うのなら、それに向かって部会でも何か出せるかもしれない。3つの部会で1つずつやって、これを10年間に向かって行こうとか、そういうほうが分かりやすい気がする。

【事務局】 事務局では、総合計画書には、当たり前のことを当たり前に書く方向で考えている。今後に向けた新たな発想だとか新しいことを盛り込んで、それを実現していこうということになるが、これまでやってきた、当然やらなければならないようなことも、やはり書くものだということをつくっている。

【委員】 基本的な農業振興は行政と農協と振興公社が担い、足りない部分は観光とのタイアップなどで補うというまとめ方がいいのではないか。

【委員】 たとえばバイオマスタウン構想を立ち上げて、地域で農業やエコフードと関連した何かをスタートすることもいいと思う。十勝のある地域では、経産省や道の応援のもとに、産官学で技術関係者が集まって地域おこしのベースとなる取組みが動き始めている。北広島も地域の中で、畜産業、農業、バイオマス、エコフードなどによる動きを始められなかったら、他の地域から遅れを取ると思う。だから、そういうものをきっかけに、長期総合計画の中で、農業とあらゆるものを関連づけ、方向づけをしてあげるといいのではないか。

【委員】 今後そういう方向が打ち出せるように、事務局も工夫してほしい。

農業振興策に加え、次世代に向けて、農業やバイオを基軸にして、資源活用のための色々な施策が出てくると思う。そうになると、農業と関連しているバイオマスを利用した燃料などのチャンスは広がってくる。そういうところから、今の人たちの意識が変わるとよい。また、北広島は全道に向かって交通面ですごく有利なところにあるし、海から持ってくることもできる。工業団地も可能性があるならば、そういう業態に向かって用意すれば、このまちの発展の可能性はある。

【委員】 工業団地は今また造成される。今言われるように、やはりそういう方向で企業誘致をするという市の姿勢はほしい。確かにエコ、バイオ、その関連分野というのは、今、国をあげての課題なので、先ほど話に出た終末処理のバイオマスについ

ても、ごみ処理の有料化とあわせて協議されたが、国としては、焼却や埋立に対して補助金を出したがない。バイオマスなどの関連であれば、国も補助金を出す。やはり国としては、CO₂の削減などの環境面には力を入れていくので、それに乗っていくという一つの方策は必要と思う。他地域では、経済産業省に出向させ、情報収集をしている。どちらかと言うと、北海道はそういう点では疎い。

【委員】 バイオ関係で言うと、ほとんどの技術が地元のものではない。メーカーとともに外から入ってくる。これは後で他の部会と関連するかもしれない。間違いなくそういう人材が育つ環境で、地元企業が残っていかないと、良い就職先も、経済も形成できない。

【委員】 岩手県の二戸市は、全国で最初に地産地消の運動を始めた。そこは本当にすばらしい。

【委員】 私が最初に言わせてもらった「地産地消」、地元で産業を起こせて、地元の商店で消費をするというもの。そこをみんなで目指さないといけない。ただし、ベースになる技術、ベースになる人材ができない限り難しい。しかし、そうなるまでは、時代を先取りした産業をよそから入れて、自分たちが学んで、それを次の世代に渡すしかない。

【委員】 岩手でも山形でもよいが、現地で1年か2年の研修を受け、どういう手法でそういうもの取り込んだらいいかを、この10年間で勉強するのもいいと思う。

【委員】 東広島市の商工会議所は、色々なところアンテナを張っている。広島県というのは独特の雰囲気がある。JICA（国際協力機構）の中国地方の拠点が東広島市にあり、世界中から色々な人たちが集まっている。そういうことに対しては、ある面では非常に手なれている。

【委員】 企業誘致に関して、企業が来るときは、こちらで選んで、誘致しているのか、それとも、一方的に来たものを受け入れるのか。

【事務局】 審査はするだろうが、買ってもらえるのならば、来るものは拒まないだろう。

【委員】 そういう状況であれば、先ほどおっしゃったように、技術や人材など先を見越して、企業を優先的に選んで探してくることはかなり難しいことで、お金が要る。

【委員】 企業からは、それだけの労働者や技術者が揃っているか、あるいは下請が揃

っているか、などを問われる。今、北海道で、そこまでできている地域は非常に少ない。自動車の製造拠点を持ってくるできないのは、優秀な下請がないことや優秀な技術者、労働者がいないことが要因。

【委員】 この前、大曲の工業団地に行ったが、旋盤で縦横切ったりするというような業種ではない。

【部会長】 何か目玉になるようなものを挙げていただきたい。特に、強く追加すべきこと、こういった方向性、10年、20年後ということを見据えてということをお願いしたい。

【委員】 暗い農家もあるが、今の北広島の農家はだいたい裕福で恵まれていると思う。農業を生業とせず、家庭菜園のような農家が多いのではないかと思う。

【委員】 担い手の育成は大変難しいところだ。

【委員】 北広島市に農業高校をつくるべきだという話をした。10年ぐらい前から言っているのだが、一向に耳を傾けてくれないのが残念である。普通科高校は何か所かあるが、1か所職業校をつくる必要があると思う。大きな農業校はいらないが、だいたい50人から100人ぐらいまでの学校をつくり、徹底的にバイオや色々なことを教えていくことが必要。市内の農地を十分活用し、研究でき、北大などとのつながりもつくり、10年後にそういうものができれば、非常に素晴らしいと思っている。

【委員】 そういうことに農地を貸すということになると、みんな喜んで貸すと思う。

【委員】 きっと教育の部会でそういうプランが出ているのではないか。

【委員】 工業団地は買い手市場である。恵庭や千歳の工業団地も同じような条件のところがたくさんある。今回は輪厚の工業団地を広げる。今あるところは、大体売却されたということなのか。

【事務局】 完売している。

【委員】 札幌市も完売。それもあって、ここも次に近隣で、交通アクセスがよい。

【委員】 やはり交通の利便性がよいのは確か。

【委員】 北広島は恵まれている。飛行機は近いし、船は近いし、どっちに向かっても

近い条件がある。

【委員】ただし、他の工業団地と比較して、少しでも利便性を高めるといような努力は絶対必要であると思う。競争相手がたくさんいるわけだから。

【委員】輪厚インターチェンジで大型車が出入りできることは必要だ。

(3) 商業について

【委員】道都大学の学生は、北広島市内でどの程度アルバイトをしているのか。そして、北広島にはどの程度住んでいるのか。

【部会長】アルバイトの状況は正確に把握していない。札幌市内からの自宅通学が3割から3割5分ぐらい。道内の地方からきた学生が3割ぐらい。道外の学生が3割ぐらい。5割から6割ぐらいは下宿、アパート暮らしだが、新札幌にもいる。学生数は1,100人ぐらい。

【委員】約300人が北広島に住んでいるとして、その300人の学生のうち半分がアルバイトをしていけば150人になる。その学生達が北広島でアルバイトして、北広島でものを食べてもらえば一番いいことであるが、その働くところが北広島ではなく、ほとんど清田や新札幌に行くと言ったことがある。やはり若い人が北広島に入ってくるようなシステムが必要だ。大きな企業を持ってくるのもいいが、地道にやっついていかないと難しいと思う。やはり学生のうち半分程度が北広島で遊んでもらえば、相当な経済効果だ。そういうところも考えなければいけない。

【委員】道都大学の近くにコンビニができるという話があったが、一向にできない。

【委員】学生が利用する期間は1年のうち半分ぐらい。商売が成り立たないのでは。

【委員】本当のこと言うと、商店数の1割ぐらいは過剰である。どこのまちも厳しい。やはりJR北広島駅前をいかに再生させるかということが重要だ。市役所庁舎を駅近くに移転し、そこを核にして、JRも含めて、そこにワンストップで何かが生まれるというような駅中心の再開発、まちづくりをしないといけないと思う。このままではまずいのではないか。早く方向づけすべきだと思う。

【委員】芸術文化ホールの横に農協の土地がある。大きい建物を建てて市に貸すとか、市役所をここに持ってきたらどうだろうかと思う。

【委員】高層化し、1階を商店にする構想もいいのではないかと思います。夢物語かもしれないが。

【委員】北広島駅からまちに出て、すぐにビルに入ってしまうのは、人が動かない。せいぜい1階か2階くらいで、できるだけ平面的な動線がよい。

【委員】駅を降りて、何か華やかな感じがしない。

【委員】帯広の屋台村のような賑わいが、北広島でもつukれないかと研究したが、難しいだろうということになった。地元のオーナー方は、既成概念の上で物事を考えてしまうので、新鮮なアイデアが出てこない。だから、違うところから新しいやり方を引き入れる努力をしないとだめではないか。

【委員】北広島駅周辺というのは、これまでも北広島の歴史の中で、官主導で計画されてつくられてきている。逆に大曲地区というのは、民が主導して開発されて、人口が増えてきている。

【委員】エルフィンパークを活用したいと思っている。何故あのドームを活用しないのか。

【委員】JRとの関係があって、万が一、上で火災などを出した場合、市が補償しなければいけない。商工会も火を使わせてほしいという話をしたが、天ぷら鍋一つの火でも、列車が止まると言われた。運行上の安全確保ということで。

【委員】エルフィンパークの活用ができないと再開発はない。駅から人を、動線誘導できなかつたら何を持ってきてもだめだろう。駅の東西に偏らない中間地帯は最高に立地条件がよい。朝市、夕市、夜は赤提灯などをやるべきと思う。いつどの時間においても、北広島が楽しくなるようにしたい。

【委員】楽しい雰囲気駅のしなければいけない。

【委員】もう一つつけ加えると、維持管理費に年間約4千万円かかる。そんな経費をかけるのであれば、活力あるものにどうして使わないのか。その規制が難しいならば、どうやってクリアしていくべきかを考えるべきだ。

【委員】話が戻るようだが、農業や市民農園について、やはり農業技術が大変である。今年のような悪天候の下で振興させるには、やはり農協や農業改良普及所などのアドバイザーのような人が1人か2人いるほうがよい。

【委員】 北広島農業高校に行ったら何でも分かるというスタイルにすればよい。

【部会長】 その他全体的に何かあるか。

【委員】 やはり工業も含めて、土木・建設業の活況が出てこないと、器をつくっても、結局はだめだと思う。その典型が、一時ブームとなったアーケード街がシャッター街になった。それはやはり基盤になる消費者、消費人口の減少への対策を立てないで商業うんぬんというのは、やはり難しい。もし北広島も札幌商圈に消費者が吸収されていくのであれば、もっと商業というのは集約していかなければならない。この1、2年の状況を見ると、何らかの手を打たなければいけないが、なかなか打てない。土木・建設業の元気がないとだめ。

(4) 労働環境について

【委員】 小学校の教員の立場からお話をさせていただく。たとえば、朝8時から17時ぐらいまで勤務する間、トイレに行く時間がなかったり、休憩時間もほとんどとれない状況にある。ほとんどの教員は、休憩時間がないような勤務状況で働いている。私の学校でも、年に1人は心の病で休んでしまう。そういう状況の中で子どもと向き合っていて、多くの教員が働いているということを知っていただきたい。管理職からの締めつけ、保護者からの突き上げもある。もう少しいい環境で働ければよいと思う。一般的に教員は夏休みや冬休みがあっていいと思われるかもしれないが、実際はつらい状況で働いている。

【委員】 1クラスの人数の多い少ないは関係あるのか。

【委員】 少ないほうがいい。今は35人。常に子どもと一緒にいないといけなないので、給食も休憩時間ではない。休憩時間なのに教育委員会の会議が入ることもある。

【委員】 ゆとり教育の反動で、先生方には非常に余分な仕事が多くなったということをよく聞く。

【委員】 決められたことがあるので、自由に授業ができない。多分年々その規制がきつくなってきて、全国学力テストの点数が低いことに対する授業改善の方策を提出するように言われている。

【部会長】 最後に、これだけは今日どうしても加えておきたいことがあればお願いしたい。次回は、追加すべきことをまとめることにしたい。また、将来都市像に関する

るキャッチコピーもご検討いただきたい。

(5) その他全般にかかわること

【委員】 農業学校の件はぜひ進めてもらいたい。なぜかと言うと、先ほど言われたバイオの問題があり、その部分の推進をしてゆけば、食の部分が随分発展していくと思うから。

【委員】 管内に2か所しかない児童養護施設が北広島にある。ここの連携を考えてはどうか。人に優しい、環境に優しい、弱者に優しい、これらを広めることを、このまちとして考えていく必要があるのではないか。休耕農地を体験型農園というような形で、そういう方たちに優先的に使用していただければと思う。そうすれば、そういう子どもを育てる親もそこに来てもらえる。

また、子ども達に1年間ほどかけて農業体験をさせ、それでテレビ番組を作成するようなアイデアもいいと思う。

4 次回専門部会の日程

次回の日時は9月24日木曜日、開始時間は18時から、場所は芸術文化ホールで了承された。

5 閉 会